

### <オンラインからのご質問>

本日は貴重な講演をいただきありがとうございました。養護教諭をしております。道徳の授業一の環で、地域の総合病院より看護師、助産師の方にお越しいただき体験的な講演をしていただきました。テーマは『生命の尊重』で、具体的には①聴診器で心音を聞く②脈拍をとる③タッチングです。生徒の振り返りからも体験的な活動に効果を感じました。本日発表でも体験的な活動についての内容が含まれていましたが、体験的な活動について詳しく、また児童生徒の反応なども教えていただきたいです。

### <回答>

オンラインで御質問をいただき、ありがとうございます。

私が学校医を務めていた間に、毎年1回2学期に総合学習の時間をいただいて小学校5年生で「いのちの始まり」、6年生に「いのちの終わり」を各2時限(正味90分)ずつさせていただいた方法は前もって事前アンケートをとって家族を話してもらい、当日に30~40分、小グループに分かれてもらって各グループにスタッフ1-2名がついて、持参した道具で体験してもらっていました。小学校高学年も話だけでは集中できないので、間に体験学習を入れると、メリハリがついてよかったように思います。時間は長すぎると收拾がつかなくなり、短すぎると体験できない生徒が多くなるようです。このような授業を10年以上続けられたのでは、歴代の校長、養護教諭、学年主任の先生方の御理解・御協力と、私どもの病院から多くは自分の時間を使って協力してきくれた看護師、助産師、師長さんたちのおかげです。スタッフにとっても楽しい授業にすることも大事で、看護師長室が年毎に担当のスタッフ(若手看護師2人ぐらい)を決めて学校側と打ち合わせやスケジュール表の作成をしてしてくれていました。

ご参考までに下記の医学商業雑誌に掲載された私の小文の表1~3をご覧ください。

タイトル： 学校医による「命の始まりと終わり」の授業

「小児科」(金原出版)第 55 巻 第 4 号 2014 年 p375～382

特集 小児科医が行う「いのちの授業」 -子どもたちにどう伝えるか-

表1. 「いのちの始まり」の授業の概要

1. 事前アンケート(家族と話すために)	
① 子ども本人の名前の由来 ?	
② 生まれたときの家族の気持ち ?	
2. 当日プログラム (計 90 分)	
① 医師の話(スライド):人の発育・発達、性交、受精、誕生	20 分
② 助産師の話(スライド)	20 分
③ 体験学習: 妊婦(妊婦ベスト着用) 赤ちゃんになってみる(出生体験) 胎児の音を聴く、触ってみる	30 分
④ 助産師のまとめ(スライド):質問と回答	15 分
⑤ 質問と回答、家族から生徒宛てに書いてもらった手紙を手渡す	
3. 準備した道具:	
① 妊婦体験用ベスト(妊娠中期用)	
② ドプラ胎児心音計	
③ 胎児の人形、乳児の人形	
④ マット、シーツ、手造りの産道・子宮・胎盤モデル	

表 2. 「いのちの終わり」の授業の概要

1. 事前アンケート(家族と話すために)	
① 身近な死の経験? ペットの死の経験?	
② 死についてどう思う?	
2. 当日のプログラム (計 90 分)	
① 医師の話(身近な死:同級生、父、生後6か月の赤ちゃん)	15 分
② 看護師:体験学習 生命現象を感じる(聴診器、経皮酸素モニター) 死ぬことを考える(亡くなった人の話、詩を読んでもらう)	40 分
③ 看護師の話:患者さんの死、自分の家族の死	20 分
④ 医師のまとめ 様々な死にかた	

死にゆく本人と残されるもの

生命の継承(遺伝、文化、技術の継承、臓器移植) 20分

---

3. 準備した道具

---

- ① パルスオキシメーター 10個
- ② 聴診器 30本
- ③ 血圧計 10個

表3. 命の終わりの授業後の感想文から

---

1. 子どもたちの反応

---

- ✓ この授業があるまで「死」ということを考えたことがありませんでした。だけどこの授業を受けて初めて自分の命の大切さがわかりました。
- ✓ 命はひとつしかないし、ゲームのようにリセットできない。
- ✓ 命には終りがあるということと、もっと生きたいのに死んでしまう人がいるということがわかりました。
- ✓ 死ぬのに「幸せな死にかた」なんてないと思っていたけど、「幸せな死にかた」もあるんだなと思いました。
- ✓ 生きてくても生きていけない人もいるから、前向きに生き、命がつきるまでしっかりと生きようと思った。

---

2. 参観した家族の感想

---

- ✓ 「死」という言葉がたくさん出てくる授業でした。でも「死」を考えてこそ「生きる」ことを大切にしたり、「命」を大切にすることにつながるのだということが分かったような気がします。
- ✓ 表現が少し難しく身近に感じるのが困難のように思いました。例を親や兄弟にする等、感じやすく表現してもらった方がよいと思う。
- ✓ 子どもたちにとっても私たち親にとっても生・死を考える良い機会になりました。
- ✓ 家族のありがたさを改めて感じました。いのち(時間)を大切にすることを考えさせられました。
- ✓ 医師の講話とおもって伺いましたが、グループに分かれて命を感じ取る体験もあり、子どもたちは生かされている今に改めて感謝が持てたのではないかと思います。命の終わりがたがいくつもあることを知り、自ら命を絶つことはしないで、のメッセージを忘れずにいてほしいものです。

西島 信

鹿児島生協病院 小児科